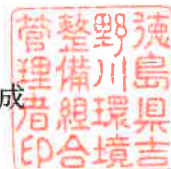


吉野川環境整備組合汚泥再生処理センター施設整備運営事業者選定審査委員会(以下、「選定委員会」という。)は、吉野川環境整備組合(以下、「本組合」という。)が令和4年5月27日に公表した「(仮称)吉野川環境整備組合汚泥再生処理センター施設整備・運営事業」の総合評価一般競争入札に係る事業者提案について、基礎審査を実施後、技術提案書及び入札価格について定量化審査により総合的に審査を行った。

本組合は、選定委員会による審査の結果を踏まえ、優先交渉権者を決定したので、選定委員会における客観的な評価の結果を審査講評として公表する。

令和5年1月6日

吉野川環境整備組合 管理者 加美一成



（仮称）吉野川環境整備組合
汚泥再生処理センター
施設整備・運営事業
審査講評

令和5年1月

吉野川環境整備組合汚泥再生処理センター
施設整備運営事業者選定審査委員会

目 次

第1章 事業概要.....	1
1 事業名称.....	1
2 施設の概要等.....	1
3 事業期間等.....	1
4 事業方式.....	1
5 事業範囲.....	1
第2章 審査方法等.....	3
1 入札の方法.....	3
2 落札者選定までの経過.....	3
3 選定委員会の設置.....	4
4 選定委員会の開催経過.....	4
5 落札者選定の手順.....	5
6 審査手順.....	6
第3章 最優秀提案者選定結果.....	9
1 資格審査.....	9
2 提案書の基礎審査.....	9
3 提案書の定量化審査及び提案書に関するヒアリング.....	9
4 入札価格の定量化審査.....	13
5 総合評価値の算出.....	14
6 最優秀提案者の選定.....	14
第4章 総評.....	15

第1章 事業概要

1 事業名称

(仮称) 吉野川環境整備組合汚泥再生処理センター施設整備・運営事業(以下「本事業」という。)

2 施設の概要等

(1) 名称

(仮称) 吉野川環境整備組合汚泥再生処理センター

(2) 建設予定地

項 目	概 要
所 在 地	徳島県美馬市穴吹町穴吹字福戸原
敷 地 面 積	約 2,450m ²

(3) 施設の概要

施設の種類	概 要	
汚泥再生処理センター	処理方式	水処理設備：膜分離高負荷脱窒素方式 資源化設備：助燃剤化方式
	処理能力	計画処理量：43kL/日 (し尿：9kL/日、浄化槽汚泥(農集排汚泥含む)：34kL/日)

3 事業期間等

事業期間等は、以下のとおりである。

事業期間：特定事業契約本契約成立日から令和27年(2045年)3月31日までの約22年間とする。

設計・建設期間：特定事業契約本契約成立日から令和7年(2025年)9月30日とする。
(本施設の竣工：令和7年(2025年)9月30日とする。)

運営・維持管理期間：令和7年(2025年)10月1日から令和27年(2045年)3月31日とする。

4 事業方式

本事業はDBO(Design:設計、Build:建設、Operate:運営)方式により実施する。

吉野川環境整備組合(以下、「本組合」という。)は本施設の設計・建設及び運営・維持管理に係る資金を調達し、本施設を所有する。なお、本施設の設計・建設については、循環型社会形成推進交付金の対象事業として実施する予定である。

落札者の構成員、協力企業を選定事業者(以下、「事業者」という。)として、本組合の所有となる本施設の設計・建設業務及び運営・維持管理業務に係る本事業を一括して行うものとする。

本組合は本施設を30年以上にわたって使用する予定であり、事業者は30年以上の使用を前提として本業務を行うこととする。

5 事業範囲

事業者が行う本事業の業務範囲は次のとおりである。

(1) 設計・建設業務

ア 建設事業者は、本組合と締結する建設工事請負契約に基づき、本施設の設計・建設業務を行

う。また、本事業を行うために必要な許認可の取得を行う。

イ 建設については、土木及び外構工事、建築物及び建築設備工事、機械設備工事、電気計装設備工事、配管工事及びその他の関連工事を行う。

ウ 工事範囲の詳細は、要求水準書【設計・建設工事編】（別添資料 1-1）を参照すること。

エ 建設事業者は、本施設の建設等に伴って発生する建設廃棄物等の処理・処分及びその他の関連業務、計画通知等の手続関連業務、本施設の試運転及び引渡性能試験を行う。

(2) 運営・維持管理業務

ア 運営事業者は、本組合と締結する運営・維持管理業務委託契約に基づき、処理対象物を受け入れ、要求水準書【運営・維持管理業務編】（別添資料 1-2）に規定する要求水準を満足する適正な処理を行う。なお、その際に、本施設の運営・維持管理業務として受付・受入管理業務、運転管理業務、用役管理業務、維持管理業務、環境管理業務、情報管理業務、資源物・残渣物管理業務、その他関連業務等を行う。

イ 運営事業者は、本施設を運転することにより発生したし渣を施設内に適正に処理し、本組合が指示する施設まで運搬を行うものとする。

ウ 運営事業者は、本施設の見学希望者等については本組合と連携して適切な対応を行う。

第2章 審査方法等

1 入札の方法

入札の方法は、地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第167条の10の2に規定する総合評価一般競争入札方式により実施した。

2 落札者選定までの経過

落札者選定までの経過は、表1のとおりである。

表1 落札者選定までの経過

日 時	内 容
令和4年 5月 27日（金）	入札公告、入札説明書等の公表
令和4年 6月 8日（水）	現地見学会
令和4年 5月 27日（金） ～ 6月 10日（金）	入札説明書等に関する質問受付（第1回）
令和4年 6月 22日（水）	入札説明書等に関する質問回答（第1回）
令和4年 6月 27日（月） ～ 7月 1日（金）	参加表明書及び資格審査申請書類の受付
令和4年 7月 8日（金）	資格審査結果の通知
令和4年 7月 15日（金） ～ 7月 22日（金）	入札説明書等に関する質問（第2回）の受付
令和4年 8月 5日（金）	入札説明書等に関する質問回答（第2回）
令和4年 9月 30日（金）	入札提案書類の受付期限
令和4年 12月 21日（水）	入札提案書類に関するヒアリング、審査
令和4年 12月 21日（水）	開札
令和4年 12月 21日（水）	最優秀提案者の選定
令和5年 1月 6日（金）	落札者の決定
令和5年 1月 6日（金）	落札者の公表

3 選定委員会の設置

本事業の事業者選定に当たり、提案審査は公平性及び透明性を確保し、専門的知見に基づく評価を行うことを目的に、学歴経験者等9名（第1回～第3回委員会は10名）により構成される吉野川環境整備組合汚泥再生処理センター施設整備運営事業者選定審査委員会（以下「選定委員会」という。）を設置し、審査を行った。

[委員の構成]

委員長	安田 千之	元 一般財団法人関西環境管理技術センター
副委員長	加美 一成	美馬市 副市長 (第3回選定委員会まで)
委員 副委員長	伊内 公一	美馬市 市民環境部長 (第3回選定委員会まで) (第4回選定委員会から)
委員	川上 周司	阿南工業高等専門学校 (第1回選定委員会まで) 長岡工業高等専門学校 (第2回選定委員会から)
委員	長江 哲	美馬市 副市長 (第3回選定委員会まで)
委員	岡 建樹	美馬市 環境整備対策監 (第4回選定委員会まで) 美馬市 副市長 (第5回選定委員会から)
委員	古城 忠美	つるぎ町 副町長
委員	吉田 正孝	美馬市 企画総務部長
委員	藤澤 正道	美馬市 環境下水道課長 (第4回選定委員会から)
委員	藤井 茂	つるぎ町 住宅環境課長
委員	藤田 英雄	吉野川環境整備組合 所長 (第2回選定委員会まで)
委員	大森 晃	吉野川環境整備組合 所長 (第3回選定委員会から)

4 選定委員会の開催経過

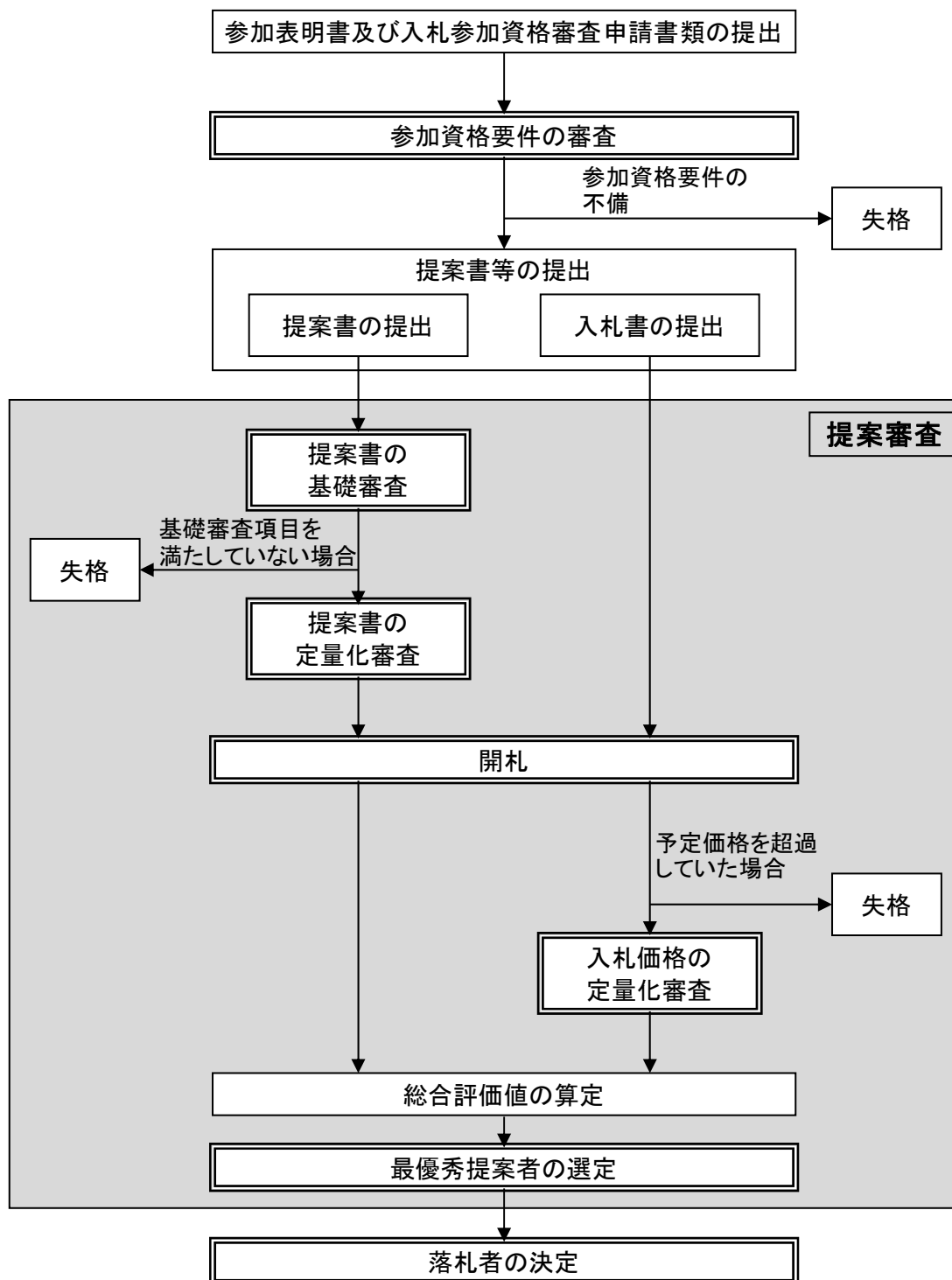
本事業の事業者選定における選定委員会の開催経過は、表2のとおりである。

表2 選定委員会の開催経過

日 付	内 容
令和3年 12月 20日 (月)	第1回選定委員会 (事業概要と委員会スケジュールに関する説明、実施方針(案)の説明、入札公告書類(落札者選定基準)に係る審議)
令和4年 3月 22日 (火)	第2回選定委員会 (入札公告書類(入札説明書、落札者選定基準等)に係る審議)
令和4年 5月 11日 (水)	第3回選定委員会 (入札公告書類(入札説明書、落札者選定基準等)に係る審議)
令和4年 11月 2日 (水)	第4回選定委員会 (提案書の基礎審査、提案内容に係る意見交換)
令和4年 12月 21日 (水)	第5回選定委員会 (事業者ヒアリング、提案書の定量化審査、開札、入札価格の定量化審査、最優秀提案者の選定、審査講評の審議)

5 落札者選定の手順

落札者選定の手順については、図1のとおりである。



※最優秀提案者を選定する委員会の事務は図中網掛け部分

図1 落札者選定の手順

6 審査手順

(1) 参加資格審査

参加資格審査は、参加表明書及び入札参加資格審査申請書の提出書類により、入札説明書に記載の入札参加者の備えるべき参加資格要件を満たしていることを事務局において確認した。

(2) 提案審査

ア 提案書の基礎審査

提案書に記載された内容が、次に掲げる基礎審査項目を満たしていることを確認した。

- (ア) 提出された提案書等が全て揃っていること。
- (イ) 提案書の内容が要求水準書に示す要求水準をすべて満たしていること。
- (ウ) 入札説明書及び様式集に示す提案書の作成に関する条件について違反のないこと。
- (エ) 提案書全体について、同一事項に対する２通り以上の提案又は提案事項間の齟齬、矛盾等がないこと。

イ 提案書の定量化審査

(ア) 審査項目及び配点

選定委員会は、表３に示す審査項目及び配点に対し、提案書等に記載された内容について審査した。

表 3 審査項目及び配点

審査項目			No.	配点
大項目	中項目	小項目		
1 事業計画に関する事項				16点
	(1) 事業実施の基本方針			4点
	① 基本方針		1	4点
	(2) 環境への配慮			9点
	① 景観、周辺環境との調和		2	4点
	② 環境教育		3	1点
	③ 資源循環の推進		4	4点
	(3) 災害時対策			3点
	① 災害に対する計画		5	3点
2 設計・建設工事に関する事項				21点
	(1) 施設全体計画			4点
	① 施設配置計画、屋外(車両)動線計画		6	2点
	② 機器配置計画、屋内(作業)動線計画		7	2点
	(2) 施設建設工事			4点
	① 工事工程及び工事実施体制		8	2点
	② 工事期間中の安全対策及び周辺対策		9	2点
	(3) 施設性能に関する考え方			9点
	① 処理の安定性		10	3点
	② 臭気対策		11	3点
	③ 搬入物の質や量の変動に対する対応力		12	3点
	(4) 地域経済活性化			4点
	① 地元貢献		13	4点
3 運営・維持管理に関する事項				21点
	(1) 運営・維持管理体制			5点
	① 運営・維持管理体制		14	5点
	(2) 長寿命化対策			4点
	① 設備・機器の長寿命化対策		15	4点
	(3) 運転操作監視業務			4点
	① 運転操作監視業務		16	4点
	(4) 施設管理報告			4点
	① セルフモニタリングと組合への報告		17	4点
	(5) 地域経済活性化			4点
	① 地元貢献		18	4点
4 自由提案				2点
	(1) 大項目1～3以外の自由提案		19	2点
5 入札価格に関する事項				40点
	(1) 入札価格		20	40点
<総合評価>				100点

(イ) 技術提案書の定量化審査に関する得点化方法

提案を求めている審査項目においては、表4に示す5段階評価により審査を行い、各委員が個別に行った評価の平均値により得点化を行う。

なお、選定委員会は、最終的な審査を下す前に、提案書に関するヒアリングを実施し、提案内容の確認等を行う。

表4 審査基準及び得点化方法

評価	評価基準	点数化方法
A	特に優れている	配点×1.00
B	AとCの中間程度	配点×0.75
C	優れている	配点×0.50
D	CとEの中間程度	配点×0.25
E	優れているとは認められない／要求水準を満たす程度	配点×0.00

ウ 入札価格の定量化審査

入札価格の定量化審査においては、提案価格について、表5の得点算定式により、入札価格を構成する設計・建設業務に係る対価及び運營業務に係る対価のそれぞれを得点化した。

なお、定量化限度額は、入札書比較価格を構成する設計・建設業務に係る内訳額（消費税及び地方消費税を含まない）に対して事前に設定した価格であり、開札時に発表した。

表5 提案価格の得点算定式

【最低入札価格 > 定量化限度額の場合】

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{入札価格の定量化審査の得点} \end{array} \right) = 40 \text{点} \times \left(\frac{\text{最低入札価格}}{\text{入札価格}} \right)$$

【最低入札価格 ≤ 定量化限度額の場合】

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{入札価格の定量化審査の得点} \end{array} \right) = 40 \text{点} \times \left(\frac{\text{定量化限度額}}{\text{入札価格}} \right)$$

※入札価格が定量化限度額以下の入札参加者の得点＝40点満点

エ 総合評価値の算出

表6に示す算定式により、各入札参加者の総合評価値を算出する。

表6 総合評価値の算出方法

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{総合評価値} \end{array} \right) = \left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{提案書の定量化審査の得点} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{入札価格の定量化審査の得点} \end{array} \right)$$

第3章 最優秀提案者選定結果

1 資格審査

令和4年5月27日に入札公告を行い、令和4年7月1日まで参加表明書及び資格申請書類を受け付けたところ、表7の1グループから申請があった。

本組合は、参加資格の確認を行い、令和4年7月8日に1グループの代表企業に対し、参加資格を有することを書面にて通知した。

表7 参加表明書及び資格申請書類等提出グループ

グループ名	藍色グループ
代表企業	クボタ環境エンジニアリング株式会社 大阪支社

なお、選定委員会による審査にあたっては、審査の公平性を期すため、提案書等すべての書類において入札参加者の企業名は伏せ、表7のグループ名で識別して審査を行った。

2 提案書の基礎審査

令和4年9月30日に入札参加資格を有する1グループより入札提案書類が提出された。

提出された入札提案書類をもとに基礎審査項目に沿って基礎審査を行った。入札提案書類を提出した1グループは、いずれも本組合が要求する水準を満足していること等が確認されたため、基礎審査に合格しているものと認められた。

3 提案書の定量化審査及び提案書に関するヒアリング

選定委員会は、令和4年12月21日に提案書の定量化審査を行った。審査に際しては、技術提案書に関する入札参加者による説明（プレゼンテーション）及び委員による提案内容に対する質疑（ヒアリング）を実施し審査を行った。

定量化審査の審査項目について、適確な提案がなされているかの審査を行い、技術提案書に関する得点化を行った。なお、評価は、本組合の要求する水準を満たしたうえで、より優れた提案に対して評価を行う加点方式である。

審査結果を表8に示す。

表8 技術提案書の定量化審査の得点結果

大項目	中項目	審査項目	No.	配点	藍色 グループ
		小項目			
1		事業計画に関する事項	—	16点	11.18
		(1) 事業実施の基本方針	—	4点	2.44
		① 基本方針	1	4点	2.44
		(2) 環境への配慮	—	9点	6.49
		① 景観、周辺環境との調和	2	4点	2.44
		② 環境教育	3	1点	0.72
		③ 資源循環の推進	4	4点	3.33
		(3) 災害時対策	—	3点	2.25
		① 災害に対する計画	5	3点	2.25
2		設計・建設工事に関する事項	—	21点	14.16
		(1) 施設全体計画	—	4点	2.50
		① 施設配置計画、屋外(車両)動線計画	6	2点	1.28
		② 機器配置計画、屋内(作業)動線計画	7	2点	1.22
		(2) 施設建設工事	—	4点	2.56
		① 工事工程及び工事実施体制	8	2点	1.17
		② 工事期間中の安全対策及び周辺対策	9	2点	1.39
		(3) 施設性能に関する考え方	—	9点	6.99
		① 処理の安定性、臭気対策	10	3点	2.58
		② 臭気対策	11	3点	2.33
		③ 搬入物の質や量の変動に対する対応力	12	3点	2.08
		(4) 地域経済活性化	—	4点	2.11
		① 地元貢献	13	4点	2.11
3		運営・維持管理に関する事項	—	21点	13.97
		(1) 運営・維持管理体制	—	5点	3.19
		① 運営・維持管理体制	14	5点	3.19
		(2) 長寿命化対策	—	4点	2.89
		① 設備・機器の長寿命化対策	15	4点	2.89
		(3) 運転操作監視業務	—	4点	3.44
		① 運転操作監視業務	16	4点	3.44
		(4) 施設管理報告	—	4点	2.56
		① セルフモニタリングと組合への報告	17	4点	2.56
		(5) 地域経済活性化	—	4点	1.89
		① 地元貢献	18	4点	1.89
4		自由提案	—	2点	0.89
		(1) 大項目1～3以外の自由提案	19	2点	0.89
合計			—	60点	40.20

技術提案書に関する各審査項目における講評は、表 9～表 10 のとおりである。

表 9 各審査項目の講評 (1/2)

審査項目		講評
1	事業計画に関する事項	
	(1) 事業実施の基本方針	
	①基本方針	・ 本事業で組合が目指す施設整備・運営や、地域特性等を踏まえた基本方針が提案されている点等を評価した。
	(2) 環境への配慮	
	①景観、周辺環境との調和	・ 周辺環境に配慮した計画が示されている点の評価した。
	②環境教育	・ 環境教育の計画、施設見学への協力内容・配慮事項に関して、実現可能な提案がなされている点の評価した。
	③資源循環の推進	・ 助燃剤の品質確保、量の低減について、具体的な提案が示されている点の評価した。 ・ 特に、資源化物の安定的な製造について提案されている点の評価した。
	(3) 災害時対策	
	①災害に対する計画	・ 災害に対する防災・減災や、災害時の対策に配慮した計画が示されている点の評価した。
2	設計・建設工事に関する事項	
	(1) 施設全体計画	
	①施設配置計画、屋外(車両)動線計画	・ 敷地を最大限に有効利用し、安全な施設配置計画・屋外動線計画が示されている点の評価した。 ・ 併設施設の車両動線、作業員動線に対する配慮を希望する。
	②機器配置計画、屋内(作業)動線計画	・ 効率的で安全な維持管理・運営が可能となる設備機器配置計画・屋内動線計画が示されている点の評価した。
	(2) 施設建設工事	
	①工事工程及び工事実施体制	・ 工期を遵守するための工事工程が提案されている点の評価した。
	②工事期間中の安全対策及び周辺対策	・ 工事期間中の安全確保や周辺対策について、具体的な計画が提案されている点の評価した。
	(3) 施設性能に関する考え方	
	①処理の安定性	・ 良好な下水道放流水の水質の確保、助燃剤の品質確保に係る具体的な方策が示されている点の評価した。 ・ 特に、提案者独自のシステムにより、処理水水質を確保し薬品費を削減可能な点の評価した。
	②臭気対策	・ 周辺環境に配慮した対策が示されている点の評価した。
	③搬入物の質や量の変動に対する対応力	・ 搬入物の質や量の変動に対して、安定的な処理の継続を実現するための方策が示されている点の評価した。
	(4) 地域経済活性化	
	①地元貢献	・ 建設期間中の組合管内の地元企業との協力・連携について下請や資材調達等について、実現可能な提案がなされている点の評価した。

表 10 各審査項目の講評 (2/2)

審査項目		講評
3	運営・維持管理に関する事項	
	(1) 運営・維持管理体制	
	①運営・維持管理体制	・約 20 年間の事業期間を通じて、効率的な運営・維持管理業務が履行できる管理体制・管理計画が示されている点を評価した。
	(2) 長寿命化対策	
	①設備・機器の長寿命化対策	・約 20 年間の設備・機器類の長寿命化対策について、予防保全を主体とした点検・補修計画が示されている点を評価した。
	(3) 運転操作監視業務	
	①運転操作監視業務	・運転管理に対する事業者の意識・知識・技術の向上に寄与する提案がなされている点を評価した。 ・特に、処理水の水質について厳しい管理目標値を設定し、それを遵守するための提案がなされている点を評価した。
	(4) 施設管理報告	
	①セルフモニタリングと組合への報告	・セルフモニタリングの実施体制、内容、頻度等、適切な計画が示されている点を評価した。
	(5) 地域経済活性化	
	①地元貢献	・運営維持管理期間中における、組合管内企業の活用等について、実現可能な提案がなされている点を評価した。 ・一方で、地元雇用の創出について、人を呼び込むための方策について、検討が必要と感じた。
4	自由提案	
	(1) 大項目 1～3 以外の自由提案	・提案者のノウハウに係る独自の提案がなされている点等を評価した。

4 入札価格の定量化審査

提案書の定量化審査の得点確定後に、提案書等を提出した各入札参加者及び選定委員会の委員立会いのもとで令和4年12月21日に開札を行い、予定価格の範囲内であることを確認した。

選定委員会は、開札結果の報告を受け、入札価格の定量化審査に関する得点化を行った。得点化の結果は、表11のとおりである。

なお、入札価格の定量化審査に関する得点化については、表12に示す予定価格及び定量化限度額に基づいている。

表11 入札価格の定量化審査の得点結果

グループ名	藍色グループ
代表企業	クボタ環境エンジニアリング株式会社 大阪支社
入札価格（税抜）	5,618,000,000 円
設計・建設業務	2,690,000,000 円
運営・維持管理業務	2,928,000,000 円
入札価格の定量化審査 の得点（40点）	40.00

表12 予定価格及び定量化限度額

費 目	予定価格	設計・建設業務に 係る対価の内訳額	運営・維持管理業務に 係る対価の内訳額
予定価格（税込）	6,191,552,400 円	2,970,000,000 円	3,221,552,400 円
入札書比較価格（税抜）	5,628,684,000 円	2,700,000,000 円	2,928,684,000 円
定量化限度額	3,748,704,000 円		

※定量化限度額は、消費税及び地方消費税額を含まない。

5 総合評価値の算出

令和 4 年 12 月 21 日に定量化審査により算出した「提案書の定量化審査の得点」、「入札価格の定量化審査の得点」を加算して、表 1 3 のとおり総合評価値を算出した。

表 1 3 総合評価値の算出結果

入札参加者		提案書の定量化審査の得点 (A) (60 点)	入札価格の定量化審査の得点 (B) (40 点)	総合評価値 (A) + (B) (100 点)
受付グループ名	代表企業名			
藍色グループ	クボタ環境エンジニアリング株式会社 大阪支社	40.20	40.00	80.20

6 最優秀提案者の選定

選定委員会は、上記の結果に基づき「藍色グループ（代表企業：クボタ環境エンジニアリング株式会社大阪支社）」を最優秀提案者として選定した。

第4章 総評

本事業は、美馬市及びつるぎ町の組合圏域から発生するし尿、浄化槽汚泥を対象として、従来稼働していた吉野川浄園の老朽化及び搬入量の減少に伴い、より効率的な施設建設を目指して更新するものである。

このような施設は旧来のし尿処理施設ではなく、余剰汚泥として発生する汚泥を積極的に再利用することで循環型社会を形成することが求められている。

本計画においては、種々の公害防止基準、環境基準を順守することはもとより、経済的、合理的な計画を基本とし、さらに周辺環境との調和や景観への配慮を行い、住民生活に調和することも求められ、環境教育の一助になることも必要とされている。

そういった多面的な要素を持った廃棄物処理施設であることを認識されたうえで、藍色グループへのヒアリング、さらに委員各位における評価を確認した結果、ここに委託事業者の決定を見た。

委員各位には、今までの委員会での熱心なご協議と深い見識に基づく提案書に対するご評価をいただいたことに深く感謝するものである。

最終決定した藍色グループは、汚泥再生処理センターの建設及び運転実績が豊富であり、本提案書及び附帯する書類等を見る限りでは、狭隘な限られた敷地の中で、車両動線の効率化や、建物の中においても適切な機器配置及び居室空間の配置が施されていることが計画に示された。また、建設工事に際しても周辺環境への配慮が伺える。

さらに、維持管理においても経験豊かな技術担当者を配置することで、長期にわたる施設運転を委託する上で信頼感をもたらすものと考えられる。

また、本委員会でも強く要望があった以下の事項については、今後事務局からも受託事業者へ重点事項として、実施設計協議、さらに施工管理に当たるよう希望する。また、施設運営に当たっては組合と施設運営事業者との密接な情報交換等によって安定的に継続する運転を図るように留意すること。

- ① 建設場所は、至近に住居が存在することを考慮し、本施設の外に臭気を絶対に漏洩させないことを最重要事項とし、十分な対策を行うこと。
- ② 処理水は美馬市特定環境保全公共下水道施設へ投入することから、下水処理施設の運転に支障を及ぼさないよう十分配慮すること。
- ③ 周辺環境、隣接施設に配慮し、組合をはじめとした地域住民の声を施設の美観計画に反映すること。
- ④ 隣接する美馬市特定環境保全公共下水道施設の車両動線、作業員動線に十分配慮した屋外動線計画とすること。
- ⑤ 地元雇用の創出に関して、実現可能な計画、魅力を創出するための計画を立て、実行すること。

本事業は、施設建設だけではなく、その後の長期にわたり運営事業者に施設運用を発注するもののため、それぞれが信頼の上に立った関係を築き、円滑に事業が推移するように希望する。

また、この施設の建設及び稼働している意義を住民に十分理解していただけるような情報公開に努めるとともに、より質の高い公共サービスを提供し、地域の環境改善に資する核となる施設として長く稼働することを期待する。

令和5年1月

吉野川環境整備組合汚泥再生処理センター施設整備運営事業者選定審査委員会
委員長 安田 千之